岡崎市議会議長　様

支出番号	4

会派名　自民清風会
代表者名　鈴木　静男

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政務活動旅行報告書

令和5年　3月　31日提出

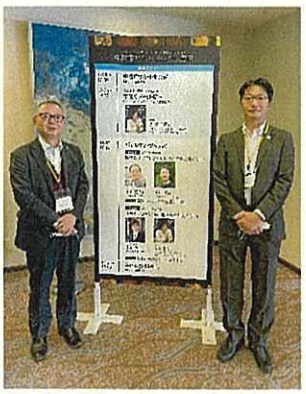
活動年月日	令和4年10月27日	
氏名	杉浦久直　廣重　敦　原田範次　蜂須賀喜久好　野々山雄一郎　酒井正一	
用務先及び内容	1 10月27日	用務先　愛知県豊田市
		内　容　中核市サミット 2022　in　豊田
	2 月　日	用務先
		内　容
	3 月　日	用務先
		内　容
	4 月　日	用務先
		内　容
備　考		

岡崎市議会事務局
受付
5.3.31
第☆☆号

政務活動研修報告書

報告者：廣重敦

研修日	令和４年10月27日（木）	開催地	愛知県豊田市
研修内容	中核市サミット2022 in 豊田		
参加者	【第１会場】杉浦久直、廣重敦		



研修目的：同じような課題を抱える中核市が一堂に集う標記サミットに参画し、各市のSDGsに関わる取り組みを学ぶと共に、今回のテーマである「ミライのその先」に関し、今、注目されている識者の講演を聴くことで、本市の持続的な成長に向けた施策に活かしていく。

開催場所：名鉄トヨタホテル（豊田市喜多町）

タイトル：『中核市サミット2022 in 豊田』

１．基調講演　未来の未来を探る～AI・組織・コミュニケーションの視点から～

日大文理学部情報科学科助教/次世代社会研究センター長 大澤 正彦氏

（１）自己紹介

・**ドラえもんをつくることが夢**。一人ではなく、ともにドラえもんをつくる。
・**つくる**ということ、**ともに**ということ、に**とことん向き合ってきた**。
・**専門は汎用人工知能**だが、他には誰もやっていなかった。
・年に一回国際会議がある**Human agent interactionでは、採択論文の過半数が日本**。
日本人が先を行っている理由の一つは、**日本にはものに心が宿るという文化**がある。

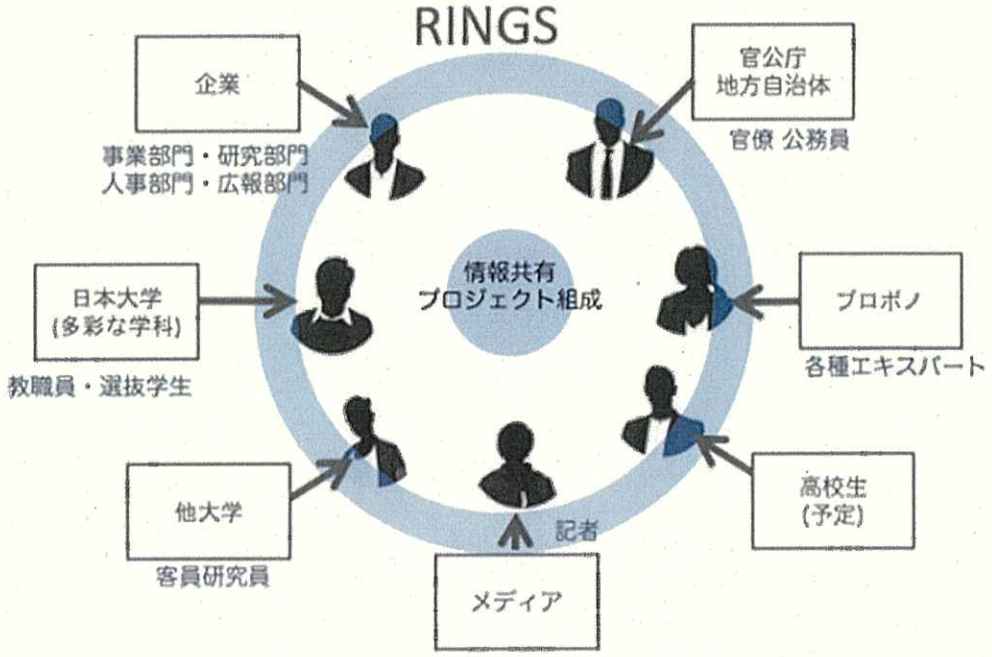
（２）未来の未来とは

・2015年AIはまだプロ棋士に勝てず、AIが勝つのは10年後だと言われていたが、実際には2016年にはAIが名人に勝つ。
・**シンギュラリティ。2045年には人工知能が人間を上回る**、と言われている。
・未来はわずか先の繰り返しで、量的なものはこれで予測できる。
・**15年先を精度良く予測し、そこから先を予測**する。現在からつかみたい未来をつなぐ**ロードマップが重要**になってくる。
・**つくる**には、**技術開発ロードマップ**。**ともに**には、**環境構築ロードマップ**が必要。
それで、**誰もがそれぞれのやりたい、得意なことに集中**できる、それを評価、協力してもらえる未来が見える。

（３）私がここに参加している目的は新しい産官学連携RINGSを広げること

・ロードマップの続きをみなさんとともに描きたい、歩みたい。30年続くチーム。
・WBA（全脳アーキテクチャー若手の会）は多種多様なコミュニティ。
・私が日本大学を選んだ理由は、**偏差値50の大学**だから。
受験では偏差値50でも、**別の軸で偏差値80の得意領域を持っている**。

・**あらゆる価値を認めるコミュニティ**をつくりたい。
・そしてプロジェクトベースではなく、**コミュニティベースで価値創造。**
・自己紹介研修→コミュニティへの接続→自分だけの学びの場を全ての人に。
・**100 人で 100 人の夢を叶える**ことで、10,000 人分の価値創造。→**ウニ型組織**
・次世代社会研究センター（RINGS）は、**プロボノが特徴**で**ノウハウよりノウフウ。**



RINGS（次世代社会研究センター）の概要（発表資料より）

・私の**専門は AI**。1 オン 1 メンタリングの**メンタリング AI**、コミュニティの触媒となる OKR の**マッチング AI**、タスク/プロジェクトマネジメントの**秘書 AI**、といったものが出てくるし、それは使えばいい。
・ひとに対しては、**学べることをカリキュラム化し、人生の選択肢として確立**したい。

・今回をきっかけに、**いろんなコンソーシアム**が立ち上がり、我々もその**いくつかに参画**できれば幸い。

2．パネルディスカッション

【第 1 会場】時代の変化にしなやかに適応する産業のミライ…杉浦、広重
コーディネーター：名古屋大学 名誉教授 山田基成氏
コメンテーター　：有志団体 Dream On 代表 中村翼氏
パネリスト　　：姫路市長、奈良市長、松江市長

（1）各市の取り組み紹介

①世界遺産・国宝「姫路城」から始まる脱炭素ドミノ…姫路市長 清元 秀泰
・**姫路市を含む播磨臨海地域は製造品出荷額等は全国 2 位**であり、この地域の強みを活かしていきたい。
・同時に姫路市の**産業部門からの温室効果ガス排出割合は全国平均の約 2 倍。**
・地域脱炭素を目指し、ゼロカーボンシティ宣言（令和 3 年 2 月 22 日）
SDGs 未来都市に選定（令和 3 年 5 月 21 日）
脱炭素先行地域に選定（令和 4 年 4 月 26 日）

・**姫路城ゼロカーボンキャッスル構想**を脱炭素先行地域計画に掲げ、各施策を展開。
・お城のLED化で電力8割カットに加え、月ごとに色を変えて意識を植え付ける。
・まだ現状では難しいが、**駅前を8車線から4車線にし、クルマ社会から脱却**することを象徴として取り組んでいく。

②奈良市の取り組み…奈良市長 仲川 げん
・奈良市＝観光のイメージは定着しているため、**観光を重点戦略に掲げ取り組む。**
・社会増減数は**2019年以降転入超過**が続いており、**2021年は＋432人。**
・ただし、年齢別でみると**20歳台ではマイナス**しており、これが課題。
その要因としては、**学生が就職を希望する業種と市区域内の職種の乖離**と推測。
・大学生数は中核市62市中7位と**多くの大学生が居るにも関わらず、市外に流出**してしていることは、市にとっても損失。
・また、子育て中の女性の就業希望率が高いにも関わらず、**既婚女性の就業率が低い。**
・**若者が求める、既婚女性が求める就職先の創出**に力を入れていく。
・**立地環境の優位性**に加え、**新しい価値**を生み出し、**「選ばれるまち」**を目指す。
・**高等教育機関との連携強化**にも力を入れて、産官学の輪を広げたい。

③持続可能な産業と暮らし～温故知新～…松江市長 上定 昭仁
・**松江にしかない強み**（唯一、日本一、国宝、世界有数）を最大限に活かす。
・「松江ならでは」の**手仕事、ものづくり文化。**（八雲漆、陶磁器、和菓子、和紙等）
・みんな（まちづくり会社、職人、商工団体、行政）で創る**「職人商店街」**。
・**新しい「本物」**が生み出される、**温故知新の「循環」**のまち松江。
・市民参加によるリサイクルの推進、循環をキーワードにしたイノベーション。
・6つの「まつえ循環プロジェクト」、「まつえファーマーズマーケット」で推進。
・**人の繋がりといった都市で失われつつあるものを大切に**していきながら、**通常の総合計画ではない何か**を**100年後も想定しながら**構築していきたい。

④産業界、大学との連携に対しての取り組み、心構え
・姫路市…**姫路ナンバーは150万**、播磨の広域連携、**鉄をつくるためには電源が必要**で、**エネルギー連携は欠かせない。**脱炭素も地域で取り組む。
姫路はこの広域連携の核になる。
・奈良市…ステークホルダーと一枚岩になることが大切。
スタートアップ等の支援がこれまで出来ていなかった。
企業版ふるさと納税による寄附を活用し新しい市の魅力づくりを行う。
高等教育機関との連携強化も含め、**トップ外交で仕組みをつくる。**
・松江市…**補助金をもらえて当たり前では持続しない。**
いずれ**自走できるように儲かる仕組み**が必要。
・中村氏…**「空飛ぶ車」**自体を**知っていただくためにVR**を作成。
本当は、**具体的に体験していただける場**があるといい。

⑤未来のその先、2030年ではなく、50年、100年先の展望
・姫路市…**脱炭素はイノベーション**で、Back to the Futureのように環境にも優しく。
姫路城を持続的なものに、バリアフリーの先に**反重力によるユニバーサルツーリズム**が出来ればいい。

・奈良市…奈良は千年以上続いているまち、**2045 年はスケジュールに乗りつつある。**
職員は 1500 人から 500 人に、自動化できるものは自動化し省力化。
南海トラフを考えると、**沿岸ではなく内陸で、中山間地でできること**を！
・松江市…今と変わらないまち。松江にしかないものは、**先人が守ってくれたもの。**
上品で上質なものが沢山ある。**リアルのよさ**を守っていく、それが強み。
・中村氏…**100 年後は、本当の意味でスマートシティ**にしていかないといけない。
パリ協定が実現しても 2300 年は海が高くなり、今の都市部には住めない。
未来を自分事として考えることが大切。

⑥総括

・松江市…今はまさに時代の転換期、**DX、SDGs** といったことが突きつけられている。
松江は、**ザ・ジャパンが残っている**都市、**しかも便利に**なっている。
これを守りながら、進展させていく。
・奈良市…自分たちが中心になりがち、**日本株式会社としてどうしていくか。**
官民合わせての資本の最適化。ごみの焼却をはじめガラガラポンが必要。
開発途上国は、一気に最新の設備を導入し追い上げてくるため、**個々に戦っていては勝てない。**
・姫路市…同じ課題を持つ中核市がネットワークを組んで進んでいくことが大切。
姫路の某企業、**浮体式の鎖**のシェアは世界№1、**つくる時には CO2 を沢山排出するが、出来た製品は脱炭素に貢献。**
どこか一つで測るのではなく、**総合でどうかを示さないといけない。**
・中村氏…皆さん言われる通り、**横連携、広域連携**が必要。**特に脱炭素、少子化。**
空飛ぶ車でも、航空関係の議論が出来る人が不可欠。
大澤先生の基調講演でも話があったように、**意思、夢、どうしたいか、どうするか、自分事化、関わること**、ということが、今後ますます重要になる。

3．所感

・**ドラえもんをつくるのが夢**、という突拍子もない話からスタートした大澤先生の基調講演は大変刺激になったし、**日本の可能性**を感じさせてくれた。
・ドラえもんのようなロボット開発に欠かせない **Human agent interaction の分野では日本が先行**しており、その根源は八百万の神信仰に培われた日本人特有の、**ものに心が宿るという文化**を持っていることに激しく共感。
・日本大学を選んだ理由が、受験で偏差値 80 の学生が集まるところではなく、受験の偏差値は 50（普通）で構わなくて、**いろいろな得意領域で偏差値 80 を持つ学生が集まり、あらゆる価値を認めるコミュニティ**を目指すというのは大変参考になる。
・**未来に向けてロードマップを描き**、人のつながりを基本とした**コミュニティベースの組織で目標を実現**していくということは、岡崎市でもぜひ進めるべき。

・事例紹介の中で、特に以下は岡崎市においても力を入れるべきと考える。
姫路市…大きな課題に対しては**広域連携で取り組む、象徴的な事業をつくる**、脱炭素は**ライフサイクルアセスメントの視点で**考える。
奈良市…**社会増減を年代別に整理**することで、どこにどういう手を打つかを考える、選ばれるまちに向けた**産官学連携をトップ外交で**仕掛けていく。

松江市…先人が守ってきた上品で上質なものは、**強みとしてこれからも守っていく。**
人のつながりを大切にしながら、**過去と未来をつなぐストーリー**をつくる。

・空飛ぶ車を開発している中村さんの「**未来を自分事として考える**」ということは本質を突いていて、みんながそうなれば、きっと未来は明るいと思う。

（同行者の所感）

・今回の豊田市で開催された中核市サミットのテーマは「多様な主体とつながり、つくり、暮らし楽しむ～中核市が描く『ミライのその先』～」ということで、行政だけでなく多様な主体との協働での未来に向けたまちづくりの取り組み事例を知ることができた。

まず大澤正彦氏の基調講演では、「未来の未来を探る」として、「ドラえもんをつくりたい」という子供時代の夢から、AI の研究者になり、周りを巻き込んだつながりの中で、理想を現実化させていくための取り組みについての熱い思いを聞くことができた。

その後、パネルディスカッションでは、「時代の変化にしなやかに適応する産業の未来」として、コーディネーターの山田教授の進行のもと、姫路市長、奈良市長、松江市長からの事例報告と、コメンテーター役の空飛ぶクルマ作りに取り組む中村氏からのコメントにより、それぞれの強みを活かし、市民や大学、企業との連携のもと取り組んでいるまちづくりを理解することができた。

全国で共通する課題としての、人口減少や、環境問題への取り組みなどについては、それぞれのまちの持つ地域特性をよく把握して対応に取り組んでいくこととともに、産業振興では一歩進んだとんがった取り組みを進めることで、「選ばれるまち」にしていかなくてはならない。自治体に求められる公平性への配慮や、意思決定の慎重さは、そうした取り組みの阻害要因ともなりうるが、トップの強い意志によるマネジメントと、公共と民間との連携をより深めることで、課題を乗り越えていけるのではないかと感じた。

政務活動研修報告書

報告者：野々山雄一郎

研修日	令和４年10月27日（木）	開催地	愛知県豊田市
研修内容	中核市サミット2022 in 豊田		
参加者	【第２会場】原田範次、蜂須賀喜久好、酒井正一、野々山雄一郎		

研修目的：同じような課題を抱える中核市が一堂に集う標記サミットに参画し、各市のSDGsに関わる取り組みを学ぶと共に、今回のテーマ「ミライのその先」に関し、今、注目されている識者の講演を聴き、本市の持続的な成長に向けた施策に活かしていく。

開催場所：名鉄トヨタホテル（豊田市喜多町）

タイトル：『中核市サミット2022 in 豊田』

１．基調講演　未来の未来を探る～AI・組織・コミュニケーションの視点から～

日大文理学部情報科学科助教/次世代社会研究センター長 大澤 正彦氏

（１）自己紹介

・**ドラえもんをつくることが夢**。一人ではなく、ともにドラえもんをつくる。
・**つくる**ということ、**ともに**ということ、に**とことん向き合ってきた**。
・**専門は汎用人工知能**だが、他には誰もやっていなかった。
・年に一回国際会議がある**Human agent interactionでは、採択論文の過半数が日本**。
日本人が先を行っている理由の一つは、**日本にはものに心が宿るという文化**がある。

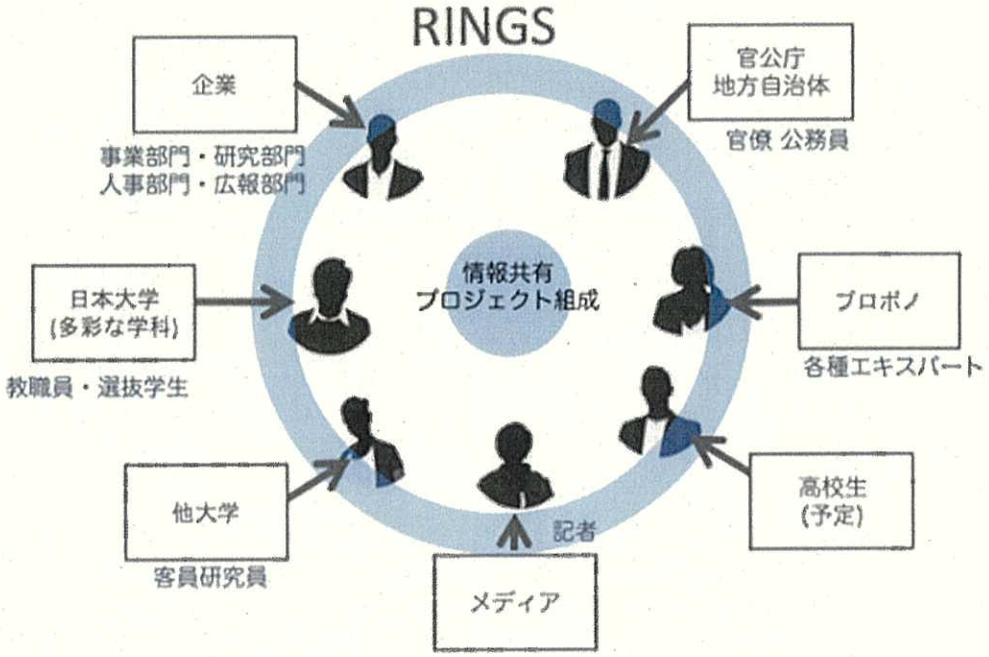
（２）未来の未来とは

・2015年AIはまだプロ棋士に勝てず、AIが勝つのは10年後だと言われていたが、実際には2016年にはAIが名人に勝つ。
・**シンギュラリティ。2045年には人工知能が人間を上回る**、と言われている。
・未来はわずか先の繰り返しで、量的なものはこれで予測できる。
・**15年先を精度良く予測し、そこから先を予測**する。現在からつかみたい未来をつなぐ**ロードマップが重要**になってくる。
・**つくる**には、**技術開発ロードマップ。ともに、環境構築ロードマップ**が必要。
それで、**誰もがそれぞれのやりたい、得意なことに集中**できる、それを評価、協力してもらえる未来が見える。

（３）私がここに参加している目的は新しい産官学連携RINGSを広げること

・ロードマップの続きをみなさんとともに描きたい、歩みたい。30年続くチーム。
・WBA（全脳アーキテクチャー若手の会）は多種多様なコミュニティ。

・私が日本大学を選んだ理由は、**偏差値 50 の大学**だから。
受験では偏差値 50 でも、**別の軸で偏差値 80 の得意領域を持っている。**
・**あらゆる価値を認めるコミュニティ**をつくりたい。
・そしてプロジェクトベースではなく、**コミュニティベースで価値創造。**
・自己紹介研修→コミュニティへの接続→自分だけの学びの場を全ての人に。
・**100 人で 100 人の夢を叶える**ことで、10,000 人分の価値創造。**→ウニ型組織**
・次世代社会研究センター（RINGS）は、**プロボノが特徴**で**ノウハウよりノウフウ。**



RINGS（次世代社会研究センター）の概要（発表資料より）

・私の**専門は AI**。1 オン 1 メンタリングの**メンタリング AI**、コミュニティの触媒となる OKR の**マッチング AI**、タスク/プロジェクトマネジメントの**秘書 AI**、といったものが出てくるし、それは使えばいい。
・ひとに対しては、**学べることをカリキュラム化し、人生の選択肢として確立**したい。

・今回をきっかけに、**いろんなコンソーシアム**が立ち上がり、我々もその**いくつかに参画**できれば幸い。

2．パネルディスカッション

【第 2 会場】多様なつながりと描く地域共生社会のミライ
コーディネーター：同志社大学 社会学部 教授 永田祐氏
コメンテーター　：日大文理学部情報科学科助教/次世代社会研究ｾﾝﾀｰ長 大澤正彦氏
パネリスト　　：岐阜市長、吹田市長、豊田市長

（1）各市の取り組み紹介

豊田市

「誰ひとり取り残さない包括的な支援体制の構築」
―幸福寿命を全うできるまち「豊田」を目指して―

① 困りごとを抱えた全ての地域住民の相談を受け止め、支援に繋げる体制を構築

・旧市内５支所（猿投・高橋・松平・上郷・高岡）へ福祉相談窓口を設置し、地域住民の困りごとを身近な窓口で受け止める。

・重層的支援体制整備事業において民間活力を導入し、行政では対応できる既存のサービスがなくても民間事業者へ個別サービスを開発し、本人にあった支援の創出・提供を可能とした。取組例として、万引きを繰り返す独居高齢者に役割を担ってもらい再犯防止と社会参加の取組、また認知症独居高齢者がＢ型就労に参加し地域共生の社会参加の取組などがある。

② サポートが必要な状態であっても、自分らしく暮らすために必要な権利擁護支援の体制を構築

・権利擁護支援に関する取組として、とよた市民後見人養成講座や法律専門職との連携による相談体制がある。今後、権利擁護支援委員会を立ち上げ、一定時期ごとに金銭管理の履行状況の確認等を行う。

③ 官民連携による社会参加・介護プログラム（ＳＩＢ）を提供し健康寿命延伸する取組

・ずっと健康プロジェクト→介護予防に資する社会参加プログラムを様々な事業者が提供するプラットホームを構築。スポーツ・健康、趣味・エンタメ、コミケ・就労など官民連携で介護予防に取り組む。例えば、フードデリバリー業者が配達先の高齢者と一緒に食事をすることで「孤食」を解消する、またドローン操縦を経験することで認知症予防を実現する。

④ 快適空間を充実する取組

・地域リハイノベーションセンターは、豊田市が藤田医科大・トヨタ自動車・豊田地域医療センター・豊田加茂医師会と５者連携協定を結び、先進技術を活用した地域リハビリテーションと在宅医療を推進する。また地域医療人材育成センターでは、訪問看護師育成センター・総合療法士育成センターなどを行う。

岐阜市

「自分らしく働ける雇用のあるまち」
―ワークダイバーシティの推進―

政策方針

幸せを実感するためには、安全安心な居場所と持てる力を

発揮できる出番、すなわち社会で働く事を土台としたまちづくりを行う事。

① 超短時間雇用創出事業
・障がいがある方、難病の方は長時間働く事が難しい。そこで、仕事を切り出し特定業務のみ、また週 20 時間未満の雇用を創出する。超短時間ワーク応援センターを設立し、企業へのアプローチ、雇用に向けた企業サポート、働きたい方の登録、見学・体験・マッチング・就労定着支援などを行う。令和 4 年 4 月から、個人からの相談 91 人延べ 282 件、アプローチした企業が 51 社、雇用実績は 4 社 4 人となっている。いずれも週 10 時間未満での超短時間での雇用を実現した。今後、超短時間雇用が障害者雇用率に算定される議論を期待した。

② テレワークを活用したショートタイムワーク事業
・ソフトバンクと包括連携協定を締結。時間や場所に縛られない雇用、短時間テレワーク形式の雇用を創出する。令和 4 年 4 月から、10 事業者（募集人員 34 人）、現在 8 人の雇用が決定。育児休業中に、少しでもいいから働きたいとの意見に対応でき、育児と仕事を両立できる環境を実現。

③ WORK！DIVERSITY 実証化モデル事業
・障害者手帳を取得していない方は法制上に支援が受けられず就労が困難、また家庭内の「自助」にも限界がある。引きこもり状態にあるなど、障害者手帳がなくても公的支援が受けられれば働ける方を就労移行支援事業所等で活用する。この事業により働きづらさを抱える方の就労と自立を支援する環境を実現し、潜在的な労働力を顕在化する。これまで働く機会に恵まれなかった方の居場所と出番を創出する。

吹田市

「中核市アライアンス」
―新たな圏域デザイン―

吹田市、豊中市、尼崎市、西宮市の４つの中核市がつながるという史上初の連携。地球温暖化対策基本協定として、プラゴミ削減、熱中症対策、傘シェアリング、環境啓発動画作成、省エネ導入促進など。また気候非常事態共同宣言、バイオマスプラ製ごみ袋、大学連携政策研究、給食プラストロー廃止、文化ホール連携、労働相談、ネットワーク人事異動、シェアサイクル共有、職員マッチングと連携での実績は多い。
政策に関して、単一自治体同士が競争的に取り組むが、そのような政策競争（特に補助額など比較しやすい取組）ではなく過度に束縛されない柔軟で動的なアライアンスが自治体運営には必要である。

所感
・健康寿命（日常的・継続的な医療、介護に依存せず自身の心身で生命維持し自立した生活ができる生存期間）を延伸させる取組は本市も含め、様々な自治体で行われている。豊田市は、幸福寿命として、「健康寿命＋快適期間」の観点を取り入れた取組を行っている。快適期間とは、自立した生活ができなくても、サポートを必要としながらも快適に過ごせる期間とある。その取組は、生きがい、社会参加など多岐にわたる。
高齢になると何かしら、身体に不具合を生じてくる。もし健康寿命を失ったら、その後は亡くなるのを待つだけであろうか。決してそんなことはない。５年～１０年といわれるこの期間に生きている充実、快適期間の観点での取組の充実は、本市においても強化すべきと考える。
岐阜市の「働くことでの社会参加」の取組は、個人的に共感し、非常に評価している。
障がい者や高齢者だけでなく、引きこもりや家庭環境によって働きづらさのある人達も対象に取り組んでいる。働きたくても働けない人々に理由は様々ある。法律上の課題もある。
「誰もが働けるまち」が「誰もが幸せを実感できるまち」になるために重要要素として考える。
吹田市の「新たな圏域デザイン」に関して、共感する。自治体間競争という言葉の聞こえはいいが市域を境に行政サービスが過度に異なるのはいかがなものかと考える。
私自身も、豊田にはあるが岡崎にない、刈谷にあって岡崎にない、安城にあって岡崎にないとの意見をよくいただく。しかし、前述の自治体になくて岡崎にあるものも多い。現在、西尾市と広域ゴミ処理施設を計画しているように、ある程度は近隣自治体との協定で同じ行政サービスを受けられる方が良い場合も多いと考える。また首長による当面のパフォーマンスによって、取組が変わっていくことは、無限の財政力があれば話も変わってくるが、市民の皆さまからいただいた限りある税金の使い方を考えた場合、圏域の中で統一する取組をすべきではと意見する。

・基調演説　「未来の未来を探る～AI・組織・コミュニケーションの視点から～」を聞いて、AI が人間を上回る。との例えをもって講演されていたが参考に値しない。
AI は学習機能があり、人間は学習機能が劣る。と言いたいのであろうか。
人間は、何で測るか。何を図るか。計る。量る。諮る。謀る。恕。斗。機。法。理。議。良。貲。
パネルディスカッション
「多様なつながりと描く地域共生社会のミライ」
豊田市
「誰ひとり取り残さない包括的な支援体制の構築」
―幸福寿命を全うできる街「トヨタ」を目指して―
①困りごとを抱えたすべての地域住民の相談を受け止め、支援に繋げる体制を構築
②サポートが必要な状態であっても、自分らしく暮らすために必要な権利擁護支援の体制を構築
③官民連携による社会参加・介護プログラム（ＳＩＢ）を提供し健康寿命延伸する取組・ずっと健康プロジェクト→介護予防に資する社会参加プログラムを様々な事業者に提供するプラットを構築

④快適空間（地域リハイノベーションセンター）を充実する取組

岐阜市

「自分らしく働ける雇用のあるまち」ーワークダイバーシティの推進ー

①超短時間雇用創出事業

②テレワークを活用したショートタイムワーク事業

③Work！DIVERSITY 実証化モデル事業

吹田市

「中核市アライアンス」ー新たな圏域デザインー

吹田市、豊中市、尼崎市、西宮市、4 つの中核市が地球温暖化対策基本協定として連携。

政策に関して、単一自治体同士が競争に取り組む、補助額等でなく過度に束縛されない柔軟で動的なアライアンスが自治体運営には必要。

3 市が発表された項目が即、岡崎市に置き換えることができない。

1 年後の成果について興味深く関心も持ち続ける。

・「100 人で 100 人の夢をかなえる」がキャッチフレーズで 1 人の夢は 100 人で支え、その関係性は 100 人分あり、100×100 で 1 万人分の力が出でて価値創造でき、「いかに 100 人を合理的に動かすか」ではなく「一人一人の夢を叶えるために組織がある」という考えが基本である。それに必要なのが、コミュニティであり、ひととつながる事により課題が解決でき、予想もしなかったような解決策を見出すこともできる。という内容だった。実際に人それぞれであり、個々の価値観を認め、つながる事の大切さを実感した。また現代においては、組織のモチベーションアップには最適な考え方だと感じた。

・サポートが必要な状態でも自分らしく暮らすために必要な権利擁護支援を構築との事である。公民連携し健康寿命を延ばす為、フードデリバリー業者と配達先の高齢者と一緒に食事し「孤食」を解消するなど、コミュニケーションをとる取り組みをされている。特に高齢者の健康寿命は社会参加により延びるともされ、引きこもらないような取組を本市でもされているが、例えば補聴器の補助など、人との関わりを長く継続できるような取組をお願いしたい。